

オプトアウトについて

健康スポーツ教育科目では、生涯にわたる健康づくりに向けた学修を進める中で、①体力テスト（握力など）、②最大酸素摂取量（推定値）、③身体組成（体脂肪率など）、④身体活動、⑤心拍数、⑥血圧、⑦ライフスタイルアンケート、⑧メンタルヘルス、⑨食事調査などの測定を行います。これらのデータは、学生の皆さん自身の健康管理能力を高めるために利用していただきますが、より効果的な教育プログラムを開発したり、得られたデータから新たな知見を導き出したりするために研究目的にも利用することがあります。なお、その際には統計データとして扱い個人が特定できない形式で使用します。

一般的に人を対象とする生命科学・医学系研究では、事前に研究対象者から適切な同意を得て実施されますが、既存情報（臨床や教育等で用いられ後に匿名化されたデータ）を用いる場合や同意の取得が困難である場合（大規模なイベント、スポーツ大会のデータなど）には「オプトアウト」による手続きが認められています。オプトアウトを用いる場合には、国が定めた指針に基づき研究対象者の方から直接同意を得る必要はありませんが、研究についての情報を公開することが必要とされております。ご自身のデータについて当該研究で用いることを望まれない場合、その情報を用いずに研究を実施します。データを提供することに不安や抵抗がある場合、ご不明な点や心配事がある場合には、各授業の担当教員へお問い合わせください。

大学生の心身機能およびライフスタイルの現状や変化の包括的研究

1. 研究の背景と目的

人生 100 年時代が提唱される超高齢化社会において、生涯にわたる健康管理能力を涵養することは、高等教育機関においても重要課題といえる。健康スポーツ教育科目は、これまでも様々な工夫がなされ各教員が専門分野を活かした教育が行われてきた。一方、コロナ禍以降に急速に発展してきたデジタル化や、大阪大学マスタープラン 2027 に示された縦型教育（入学から卒業・修了まで）に対応したカリキュラム改定が進められている。

健康スポーツ教育科目の授業内で収集されたデータは、学生個々にとって重要である一方、これらのデータを集約し包括的に分析することで、より有益な情報を提供したり、効果的な教育方法を探索したりすることが期待できる。そこで健康スポーツ教育科目の授業内で行う測定において、データ収集からその管理および分析についての一連の流れについて示したうえで、新たな知見が得られるよう取り組みを進める。研究期間は、～2029 年 3 月 31 日とする。

2. 研究等の内容

全学共通教育の教育科目の授業で実施された計測やアンケートのデータを集約し、包括的に分析することで、大学生の心身機能やライフスタイルなどの現状、および教育科目の授業がそれらに及ぼす影響を様々な統計手法を用いて調査を行う。

2 - 1. 調査対象者

教育スポーツ教育科目を受講する大学生を対象に、授業を担当する教員がデータ収集を行う。1 クラス平均 30～40 名（最大 100 名程度、最小数名程度）を対象とする。

（最大で 1 年間で 3000 名、過去データを含めるとそれ以上が想定される）

2 - 2. 調査内容

①体力テスト（握力など）、②最大酸素摂取量（推定値）、③体脂肪率、④身体活動、⑤心拍数、⑥血圧、⑦ライフスタイルアンケート、⑧メンタルヘルス、⑨食事調査など

2 - 3. データの収集方法

①記録用紙・質問紙

②WEB を介したスマートフォンやパソコンを用いたデータ収集

2 - 4. 収集したデータの管理方法

①記録用紙および質問紙は、データ入力したファイルをインターネット回線とは遮断されたデータサーバにて保存管理を行う。

②WEB（インターネット回線と IT 機器）を用いたデータ収集には、ネット上の個人情報保護のため情報を暗号化して送受信をする SSL サーバー認証を利用する。

2-5. 個人情報の保護の取り組み

個人情報を保護するため、測定データを保存したファイルには、氏名、性別、年齢などの個人情報は含まないで ID にて管理を行う。ID と氏名を紐付けたファイルは、施錠されたキャビネットに管理することにより、万が一、データの漏洩が生じた場合のリスクを軽減する。

2-6. 各教員間および外部機関とのデータのやり取りについて

メール等でのデータの送受信の際には、個人情報を除いたファイルでやり取りをし、誤送信を避けるため、国立情報学研究所（NII）が提供する NII FileSender を用いる。

3. 研究等に参加する研究等対象者に説明する内容

以下の内容を授業内で説明するとともに健康スポーツ教育科目に関わる HP で公開することにより周知する。

健康スポーツ教育科目では、生涯にわたる健康づくりに向けた学修を進める中で、①体力テスト（握力など）、②最大酸素摂取量（推定値）、③身体組成（体脂肪率など）、④身体活動、⑤心拍数、⑥血圧、⑦ライフスタイルアンケート、⑧メンタルヘルス、⑨食事調査などの測定を行います。これらのデータは、学生の皆さん自身の健康管理能力を高めるために利用していただきますが、より効果的な教育プログラムを開発したり、得られたデータから新たな知見を導き出したりするために研究目的にも利用することがあります。なお、その際には統計データとして扱い個人が特定できない形式で使用します。

一般的に人を対象とする生命科学・医学系研究では、事前に研究対象者から適切な同意を得て実施されますが、既存情報（臨床や教育等で用いられ後に匿名化されたデータ）を用いる場合や同意の取得が困難である場合（大規模なイベント、スポーツ大会のデータなど）には「オプトアウト」による手続きが認められています。オプトアウトを用いる場合には、国が定めた指針に基づき研究対象者の方から直接同意を得る必要はありませんが、研究についての情報を公開することが必要とされています。ご自身のデータについて当該研究で用いることを望まれない場合、その情報を用いずに研究を実施します。データを提供することに不安や抵抗がある場合、ご不明な点や心配事がある場合には、各授業の担当教員へお問い合わせください。

4. 想定される研究成果等

健康やスポーツ・体育に関わる学術大会における研究成果の発表や論文投稿により得られた知見を公開することがある。また、教育分野において、大学教育学会や大学体育連合など教育プログラムを共有できる団体において、得られた知見を公開することにより、新たな課題の発見や問題解決に向けた取り組みを行う。より効果的な教育プログラムの開発にも利用する。一方、対象者に対しては、個別の結果をフィードバックするとともに、自身の体力、身体活動、体組成、その他生活習慣やメンタルヘルスを知ることにより、自身の心身の健康状態について知ることができ、健康的なライフスタイルを獲得するために必要なスキルを身に付けるための教育が提供される。学生が健康的なライフスタイルを身に付けるための、より優れた教育方法の開発が期待できる。例えば、学生の特徴に応じた

テラーメイド型教育プログラムの開発やデジタルデバイスを用いたより効果的な教育方法の開発などが考えられる。

5. 研究等における倫理上・安全上の配慮に関する資料

研究倫理上・安全上、次の3点について十分に配慮をして研究を進める。

5-1. 測定に伴う考え方と身体面と精神面への配慮について

基本的には教育サービスを受ける公平性を担保するため、同じ授業内で受講する学生の全データを取り扱う。しかし、測定項目によっては、高価な機器を使用したり、同一授業内で全受講者の評価を行う上で時間的制約が生じたりする可能性がある。その場合には、抽選や希望などを考慮して対象者を選択することもある。また、当日の体調不良や特別な配慮を要する場合など、測定自体が対象者の学生にとって負担になることも想定される。あくまでも測定に参加するか否か、そのデータを提供するか否かは学生が判断できるようにする。

5-2. オプトアウト（データ提供を望まない場合の対応）

侵襲や介入がなく教育目的で収集したデータを研究に用いることを想定していることから、文章または口頭で説明を行い同意を得る代わりに、研究の概要について通知又は公開し、研究が実施又は継続されることについて、対象者が拒否できる機会を保障するオプトアウト方式によって行う。研究に参加しない（データ提供を望まない）場合には、各授業担当教員へ申し出ることとする。担当教員は、データ提供を断ったことによる成績への影響がないことを伝え、授業内で収集したデータより削除をする。また、既にデータを収集して過去のデータについて削除を求められた場合には、データ管理者へ連絡をする。データ管理者は、申し出のあった対象者のデータをデータセットから削除することに加え、データセット作成前の素データファイルからも削除を行う。

5-3. 個人情報の取り扱い（漏洩防止、匿名化）

① データ収集の流れ（匿名化）

1クラス30～40名を対象に上記に関連するデータを授業担当教員が収集をする。収集したデータの管理は授業担当教員が行うものとする。一方、複数の授業にて収集したデータを統合する際には、個人情報の流出に十分に配慮し、匿名化を必須として取り扱う。

② データの送受信について

メール等でのデータの送受信の際には、個人情報を除いたファイルでやり取りをし、誤送信を避けるため、国立情報学研究所（NII）が提供するNII FileSenderを用いる。記録用紙および質問紙は、データ入力したファイルをインターネット回線とは遮断されたデータサーバにて保存管理を行う。WEB（インターネット回線とIT機器）を用いたデータ収集には、ネット上の個人情報を保護するため情報を暗号化して送受信をするSSLサーバー認証を利用する。個人が特定される形式では、データベースは作成せず、匿名化された形式にてデータベースを作成・管理を行う。

③ 個人情報の保護

研究対象者の不利益として、例えば散布図で示すと極端に体重が重い個人を特定できる可能性があ

るため、今回扱うデータに関しては、散布図等で示すことは行わず、平均値と標準偏差、或いは階層化したデータで示し、個人情報の保護を最優先する。

④ データの保存期間

過去のデータとの比較により、学生の体力水準を明確にすることができることや、大阪大学に入学する学生の傾向を経年的に把握することが可能となる。さらに、将来に向けて基礎となる学生時代の健康関連データを残すことにより、卒業後の健康データ、社会での活躍状況などと関連づけることにより、学生時代に身に付けるべき運動習慣を含むライフスタイル等を明確にするような、よりエビデンスレベルの高い疫学研究に発展させることが期待できる。収集したデータは10年間保存することを想定している。それ以上に研究が継続する場合には、新たに倫理申請を行うこととする。

6. 研究実施体制

【研究等代表者】

難波秀行・大阪大学全学教育推進機構 全学教育企画開発部 スポーツ・健康教育部門・准教授

【健康・スポーツ教育科目に関連する教員（研究従事者）】

中田研・大阪大学大学院医学系研究科 健康スポーツ科学講座・教授

松尾知之・大阪大学大学院医学系研究科 健康スポーツ科学講座・准教授

内藤智之・大阪大学大学院医学系研究科 健康スポーツ科学講座・准教授

金本隆司・大阪大学大学院医学系研究科 健康スポーツ科学講座・准教授

小笠原一生・大阪大学大学院医学系研究科 健康スポーツ科学講座・講師

横山光樹・大阪大学大学院医学系研究科 健康スポーツ科学講座・講師

近田彰治・大阪大学大学院医学系研究科 健康スポーツ科学講座・助教

七五三木聡・大阪大学全学教育推進機構 全学教育企画開発部 スポーツ・健康教育部門・教授

島本英樹・大阪大学全学教育推進機構 全学教育企画開発部 スポーツ・健康教育部門・准教授

難波秀行・大阪大学全学教育推進機構 全学教育企画開発部 スポーツ・健康教育部門・准教授

小見山高明・大阪大学全学教育推進機構 全学教育企画開発部 スポーツ・健康教育部門・講師

藤田和樹・大阪大学全学教育推進機構 全学教育企画開発部 全学共通教育部門・教授

中谷大作・大阪大学健康スポーツ科学教育研究環・教授

青山千紗・大阪大学健康スポーツ科学教育研究環・助教

山川学志・大阪大学大学院医学系研究科 健康スポーツ科学講座・助教

【健康・スポーツ教育科目に関連する教員（研究協力者）】

足立学・園田学園女子大学・准教授（大阪大学非常勤講師）

飯野裕子（大阪大学非常勤講師）

伊奈新太郎・森ノ宮医療大学・助教（大阪大学非常勤講師）

今井大喜・大阪公立大学・准教授（大阪大学非常勤講師）

岩崎晋・Fort Lewis College・准教授（大阪大学非常勤講師）

梅崎高行・甲南女子大学・教授（大阪大学非常勤講師）
川窪淳子（大阪大学非常勤講師）
北口良平（大阪大学非常勤講師）
佐藤慶明・大阪産業大学・准教授（大阪大学非常勤講師）
住本純・神戸女子大学・専任講師（大阪大学非常勤講師）
泉水宏臣（大阪大学非常勤講師）
中西康人・大阪産業大学・教授（大阪大学非常勤講師）
中原英博・森ノ宮医療大学・教授（大阪大学非常勤講師）
橋本恒・大阪教育大学・准教授（大阪大学非常勤講師）
畑本陽一・国立健康栄養研究所（大阪大学非常勤講師）
福本直子（大阪大学非常勤講師）
馬込卓弥・追手門学院大学・准教授（大阪大学非常勤講師）
森祐貴・園田学園女子大学・講師（大阪大学非常勤講師）
山崎雅史・園田学園女子大学・准教授（大阪大学非常勤講師）

7. 連絡先

大阪大学全学教育推進機構スポーツ・健康教育部門

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-16

Tel: 06-6850-6209

E-mail: namba.hideyuki.celas@osaka-u.ac.jp

<研究代表者> 難波 秀行